

平成31年度

# 教育行政執行方針（要旨）

帯広市教育委員会

---

---

1	はじめに	1
2	基本的な考え方	2
3	主な取り組み	4
(1)	次代を担う人づくり	4
(2)	ともに学びきずなを育む地域づくり	5
(3)	基本目標を実現するための基盤づくり	5
4	むすび	7

---

---

## 1 はじめに

平成の時代も残りわずかとなりました。現在、新しい時代の幕明けに向け、経済の緩やかな回復基調が続いている中で、情報・技術をめぐる変化が加速度的に進み、その影響は身近な暮らしから社会のあらゆる領域にまで及ぼうとしています。

このような状況に対応するため、情報化やグローバル化といった社会的変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合いつつ、自らの可能性を発揮し、多様な人々と協働しながら活躍する人材を育成することが教育に求められています。

また、これからの時代を生きる子どもたちの資質・能力を育むためには、学校・家庭・地域が課題を共有し、それぞれ適切な役割を果たすとともに、相互に連携・協働して社会全体で子どもの成長を支えていくことがより一層重要になります。

こうした背景のもとに、新学習指導要領に基づいた教育課程が小学校においては2020年度、中学校は2021年度、高等学校では2022年度から実践されることとなっており、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善や、地域と連携・協働しながら必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現など、現在、様々な視点での検討が進められていま

す。

さらに、「人生100年時代」や「超スマート社会(Society5.0)」の到来を見据え、市民が生涯にわたって学び、地域に参画し、活躍できる環境を整えていくことが重要になってきています。国では、「第3期教育振興基本計画」に基づき、誰もが活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現や、社会の持続的な成長・発展を目指す取り組みなどが進められています。

変化の大きな時代を豊かに生きていくために、現代的・社会的な課題に対応した学習の推進や地域づくりを中核となって担う人材の育成など、市民一人ひとりの可能性とチャンスを最大限に引き出す施策の推進が求められています。

## 2 基本的な考え方

帯広市教育委員会は、社会的背景を踏まえて、帯広市教育基本計画の基本理念である、「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」を実現するため、基本計画に基づく施策を進めてまいります。

学校教育分野においては、小・中学校9年間の義務教育期間を通して、児童生徒一人ひとりが心身の発達段階に応じて、必

要な力を柔軟かつ効果的に身に付けることができるよう、学校・家庭・地域の連携・協働のもと、必要な環境整備を進めながら学校教育を推進してまいります。

生涯学習分野においては、誰もが生涯にわたって自らの成長や自己実現に必要な知識や技能を学び、その成果を地域社会に主体的に生かすことができるまちづくりを進めていくため、世代を超えた多様な学びのきっかけづくりや、生き生きと活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。

「帯広市教育基本計画」につきましては 2019 年度で最終年度を迎えることから、(仮称) 第二期帯広市教育基本計画市民検討委員会及び帯広市社会教育委員会議の提言を踏まえ、現行計画の理念を引き継ぎつつ、教育分野において取り組むべき課題やこの間の社会情勢の変化により生じた新たな課題への対応等、新しい時代にふさわしい教育を行うため、地域の資源や将来の社会を見据えたうえで、次期教育基本計画を策定してまいります。

### 3 主な取り組み

#### (1) 次代を担う人づくり

小学校においては、新学習指導要領への円滑な移行に向け、中学年での外国語活動、高学年での外国語科授業時間数の増加に伴い、外国語指導講師（ALT）を増員してまいります。加えて、小中学校の長期休業日を3日間短縮し、自然災害などによる休校に伴う授業時数不足に備えた対応や放課後の児童生徒の活動時間の確保等をはかってまいります。

学校給食については、食材価格の高騰により、必要な食材の調達に支障をきたすことから、給食費の改定を行い、児童生徒の健やかな成長のため、安全・安心な地場産食材を活用した帯広らしい給食を提供してまいります。

帯広南商業高等学校については、十勝管内唯一の商業専門高校として、地域社会で即戦力となる豊かな教養を身に付けた人材育成を目指してまいります。

生涯学習においては、企業・大学・団体・個人など様々な主体と連携・協力しながら、市民大学講座や創造活動センター講座など多様な学習機会を提供してまいります。

また、スポーツを通じた交流や、健康・体力づくりを進め

るため、第8回フードバレーとかちマラソン大会の開催や総合型地域スポーツクラブの設立支援などに取り組んでまいります。

## **(2) とともに学びきずなを育む地域づくり**

文化芸術の振興については、4年ぶりとなる市民オペラ公演など市民の文化芸術活動の支援及び文化芸術に触れる機会の提供に取り組んでまいります。

百年記念館では、十勝・帯広の開拓や産業の形成を紹介する特別企画展を開催するなど、地域の歴史や文化を学び、郷土理解を深める機会を提供してまいります。

スポーツの振興については、第34回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会の開催など、多くの人々が十勝・帯広を訪れる全国規模のスポーツ観戦の機会を創出してまいります。

## **(3) 基本目標を実現するための基盤づくり**

帯広市エリア・ファミリー構想を基盤として、各エリアの状況に応じた小中一貫教育の推進をはかり、義務教育9年間を通

した連続性・系統性に配慮した教育に取り組んでまいります。併せて、地域と連携した取り組みを進めるコミュニティ・スクールについては、モデル校を指定し、推進してまいります。また、大空中学校の小規模化の影響を緩和し、教育環境の充実と活力ある学校づくりを進めるため、大空小学校と大空中学校を統合し、施設一体型の義務教育学校の開校を目指してまいります。

このほか、大型提示装置、児童用パソコンの一部タブレット化など ICT 化の促進や、小学校高学年の机・椅子の更新、スクールロッカーの整備など学習環境の充実をはかるほか、教職員の働き方改革の実現に向け、「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」に基づく取り組みを進めてまいります。

社会教育、文化、スポーツ施設については、長期的な視点を持って施設機能が効果的に発揮するよう、個別施設計画を策定するほか、新たな総合体育館の 2020 年 3 月供用開始に向け、施設命名権の募集など開館に向けた準備を進めてまいります。

また、おびひろ動物園の魅力向上と今後の整備の方向性を示す「(仮称) おびひろ動物園魅力アップ推進プラン」及び子ども



もの自主的な読書活動の推進に取り組むための方向性を示す「第四期帯広市子どもの読書活動推進計画」を策定してまいります。

## 4 むすび

平成30年9月6日未明、胆振地方中東部を震源とした地震により、北海道内の灯りが一瞬にして消え、信号が点かない交差点では、車と車、そして車と人が譲り合いながら行き交っていました。

平成のその先の時代は、「将来の変化を予測することが困難な時代」と言われています。こうした時代にあっても、市民一人ひとりが様々な課題や目標と向き合い、多様な個性を有する人々と協力しながら困難を乗り越えていく力を身に付けることで、自らの夢や志を実現していくことが、やがて全ての市民の幸せにつながっていくものと信じています。

今後とも、学校・家庭・地域をはじめ、様々な活動主体と連携・協働しながら各種教育施策の推進に全力で取り組んでまいります。